

第75回 舞踊学会大会 発表資料
2023(令和5)年12月3日
(東洋大学 白山キャンパス)

自然運動を基盤としたMadge Atkinsonのダンス教育
- 1920年代の実践に焦点をあてて -

廣兼 志保(島根大学)

研究の動機

筆者は、日本の学校体育において1910年代後半から1920年代にかけて欧米からダンス教材が摂取され普及していく過程で、教育理論、運動理論、教材がどのように取捨選択されたかを明らかにする課題に取り組んでいる。

1920年代後半には、自然な運動によって感情や思想や物語を表現するナチュラルダンスが欧米から日本の学校体育へ新たに導入され、欧米の指導者達の先行実践やダンス教材などが日本に紹介された。そのうちの一人が、イギリス、マンチェスターのスクール・オブ・ナチュラル・ムーブメントの創立者マッジ・アトキンソン(Madge Atkinson, 1885-1970)である。

学校体育へのナチュラルダンスの導入は、伝統的なダンス技法ではなく自然な運動による表現的なダンス教育の始まりを象徴している。日本人ダンス教育者荒木直範は、欧米留学の成果として、アトキンソンのナチュラル・ムーブメントによるダンスの指導方法の一端を、著書を通して日本の初等・中等教育の教員達に紹介した。しかし、荒木は、ナチュラルダンスの具体的なエクササイズの内容については記していない。

では、アトキンソンが開発したナチュラル・ムーブメントは、どのような動作から構成され、どのようなエクササイズが指導されていたのであろうか。

研究の方法

本研究は、荒木の留学期間を含む1920～1926年のマッジ・アトキンソンのナチュラルダンスの教育実践を対象とした。

下記の文献を一次史料として講読し、史料の記述から、アトキンソンが指導したエクササイズの詳細を明らかにした。

① “*The Dance, Based on Natural Movement: an Introduction to My System of Teaching.*” (Atkinson, 1926, pp.290-299)

これはアトキンソンが開発したナチュラル・ムーブメントに基づくダンスの指導体系について、アトキンソン自身が解説した記事である。

② “*The Physical Training of Girls*”第IV章 (Johnstone, 1924, pp.57-74)

これはマンチェスターの女子中央高等学校(Central High School For Girls)校長のメアリー・ジョンストン(Mary Johnstone)の著書であり、アトキンソンのダンス指導実践を観察した記録と考察が記された章である。

研究の目的

本研究の目的は、1920年代にマッジ・アトキンソンが開発したナチュラル・ムーブメントに基づくダンス教育を対象に、マッジ・アトキンソンのダンス教育の特徴と、彼女が開発したナチュラル・ムーブメントがどのような動作で構成され、どのようなエクササイズが指導されていたかを明らかにすることである。

将来的には、本研究の成果を、マッジ・アトキンソンのナチュラルダンスの教育が荒木直範によってどのように取捨選択され、日本の学校体育に紹介されたかを考察するための基礎資料としたい。

結果と考察

20世紀初頭のイギリスの学校体育へのダンスの導入

イギリスの教育委員会が1909年に発表した身体訓練要目(*Syllabus of Physical Training*)は、ステップマーチ、ダンス、スキップ、ジムナスティックゲームなどのレクリエーション的な運動を採用した。その理由は、前要目に採用されたスウェーデン体操の不活発であきあきする単調さを補うためであった(マッキントッシュ, 1973, p.127)。

身体訓練要目へ採用されたことで、ダンスはイングランドとウェールズの州立学校の体育カリキュラムの一領域として公式に認められた。題材には、フォークダンスが採用されていた(Brinson, 1980, p.193)。

レクリエーション的な効果を期待されて、ダンスが学校体育のカリキュラムへ導入されたことがわかった。

学校体育のカリキュラムにダンスが導入された頃、アトキンソンはどのような活動を行っていたのであろうか。次に、アトキンソンの略歴をみていく。

表1 マッジ・アトキンソンのダンス教育活動の略歴

年代・年齢	マッジ・アトキンソンのダンス教育活動事項等
1885年2月16日・0歳	イギリス マンチェスターにて出生。幼少よりダンスを学ぶ。
1910年・25歳	ダンスに興味を持ち、特にイソドラ・ダンカンやダルクローズのリトミックを学ぶ。
1912年・27歳	独自のダンス・システムを開発。
1918年・33歳	マンチェスターのデーンズゲート259番地にスクール・オブ・ナチュラル・ムーブメントを開校。
1920年代・35～44歳	王立マンチェスター音楽大学の教授に任命され、バントマイムやジェスチャーを指導。
1921年・36歳	モリー・サフィールドをパートナーに迎え、アトキンソン・サフィールドスクールを創設。
1925年・40歳	帝国ダンス教師協会(Imperial Society of Teachers of Dancing)から招待を受け、同協会にナチュラル・ムーブメント支部を設立。
1925～1939年・40～54歳	マンチェスターの学校でナチュラル・ムーブメントが広く教えられる。
1936年・51歳	サフィールドとのダンススクールの共同経営を解消し、ロンドンへ移転。アニタ・ヘイワースと共にダンススタジオを開校。
1944年・59歳	ヘイワースと共に、初の教員養成学校であるロンドン教育舞踊学校(後のロンドン・カレッジ・オブ・ダンス&ドラマ) (LCDD) 設立に参加。
1954年・69歳	事故により松葉杖を使用するようになり、教職を引退。
1967年・82歳	帝国ダンス教師協会ナチュラル・ムーブメント部会長を退任。帝国学士会より名誉会員の称号を授けられる。
1970年5月19日・85歳	死去

Carter(2010)pp.92-93, Carter and Fensham(2011) pp.73-81, Carter and Kelly(2011) p.7より廣兼著作(2022)

1

2

3

4

5

6

ダンス教育者としてのマッジ・アトキンソンの経歴①

カーターらの調査結果(Carter and Kelly,2011)をもとに作成したのが、表1のマッジ・アトキンソンのダンス教育活動の略歴である。

アトキンソンは、1885年にマンチェスターに生まれた。アトキンソンは、1910年よりイサドラ・ダンカンのダンス、アナア・スポングの自然運動、エミール・ジャック=ダルクローズのリトミックに興味をもつようになり、これらを融合させて1912年に自然な運動を基盤として体系化されたダンスの開発を始め、1918年にスクール・オブ・ナチュラル・ムーブメント(自然運動の学校)を開設した(Carter,2010,pp.92-93)。このスクールは民間の教育機関である。

1920年代には、アトキンソンは王立マンチェスター音楽大学で音楽の学生達にパントマイムやジェスチャーを指導し、初の教員養成学校であるロンドン教育舞踊学校の設立にも参加するなど、高等教育にも携わっていた。また、帝国ダンス教師協会にナチュラルムーブメント支部を設立し、部会長を務めるなど、アトキンソンはナチュラルダンスの教育において指導的な立場にあったことがわかった。

7

ダンス教育者としてのマッジ・アトキンソンの経歴②

前述の荒木によってアトキンソンのダンス教育が日本に紹介されたのは1926年である(荒木,1926,p.3,pp.9-14)。アトキンソンがスクール・オブ・ナチュラル・ムーブメントを開設した8年後にあたる。

アトキンソンはスクール・オブ・ナチュラル・ムーブメントのスタジオで3歳から20歳の生徒達にナチュラルダンスを指導していた。この他、高等学校の女子クラスや地域の社会教育としてのクラスでもアトキンソンのナチュラル・ムーブメントに基づくダンスが指導されていた(Johnstone, 1924, p.59)。

アトキンソンのナチュラル・ムーブメントに基づくダンスは1925年から1939年にマンチェスターの学校を通じて広まり、学校体育の中でナチュラルダンスが指導されるようになった(Brinson,1980,p.195, Carter,2010,p.93)。

8

1920年代におけるアトキンソンのダンス教育の特徴①

アトキンソンは、イギリスのダンス専門雑誌である“*Dancing Times*”の1926年クリスマス号に“*The Dance, Based on Natural Movement: an Intro-duction to My System of Teaching*(自然な動きに基づくダンス:私の指導の体系的的方法)”と題する記事を発表している。

アトキンソンは、この記事で、「(筆者注:古代)ギリシャのダンスは自然な動きや日常生活の動作に基づいており、その素晴らしい人々の最盛期の芸術から言い表せないほど美しい表現を学ぶことによって、我々の現代世界において真に価値あるものの多くを身に付けることができる。今日を生きつつも過去の栄光と理想から利益を得よう。芸術と人生一般においてより広い視野に達しようとして心から望んでいるような現代においても、ナチュラルダンスは(筆者注:古代)ギリシャのダンスのようなその位置を占めるべきである」(Atkinson,1926,p.290)と記している。古代ギリシャのダンスを理想とし、自然な動きや日常動作による美的な表現を目指していたことがわかる。

さらに、この記事には、アトキンソンが指導するエクササイズの詳細が説明されている(Atkinson,1926,pp.291-298)。

9

1920年代におけるアトキンソンのダンス教育の特徴②

アトキンソンによる自らのダンスの指導体系の解説や、ジョンストンによるアトキンソンのダンス指導実践の観察記録と考察から、アトキンソンが指導していたダンス教育の特徴は、以下の5点にまとめられた。

- (1)裸足でのダンス
 - (2)体幹と四肢とで形作る基本姿勢
 - (3)腕が空間に描くラインで形作る基本デザイン
 - (4)日常生活の動作から作られたエクササイズ
 - (5)音楽の基本的原理と身体運動との調和
- 次に、これら(1)～(5)の内容を一目目ずつみていく。

10

1920年代におけるアトキンソンのダンス教育の特徴③

(1)裸足でのダンス

靴を履かずに動くことで足は生来の自然な形や機能に戻るとアトキンソンは述べ、足の動きの教育を重視した。甲や足の指に荷重したり揺らしたりするロックというエクササイズが作られ、指導されていた(Atkinson,1926,pp.291-293)。

当時のイギリスの女性用の靴の形状の影響から、成人だけでなく多くの12歳の少女達の足にも外反母趾がみられることを問題視していたジョンストンは、アトキンソンのスタジオでの指導実践を観察して「ミス・アトキンソンは足のトレーニングに非常に注力しており、間違いなく成功している。このクラスの年長生徒の中には、変形した足の指の関節の矯正治療のために医師の助言を受けてこのクラスに送られてきた生徒も何人かいた。」(Johnstone, 1924, p.60)「これ(筆者注:ロック)を他のいくつかのエクササイズと組み合わせると、足の指の関節が変形した頑固なケースが治った。つま先の柔軟性と足全体の柔軟性が増した。」(Johnstone, 1924, p.69)と記し、変形した足の矯正や機能の改善という点から、これらのエクササイズに教育的効果を認めていた。

11

1920年代におけるアトキンソンのダンス教育の特徴④

(2)体幹と四肢とで形作る基本姿勢

頭頂から地面まで引かれた仮定の垂線と手足との位置関係によって分類された、直立姿勢、前傾姿勢、後傾姿勢の3種類が基本姿勢として示され、指導されていた(Atkinson,1926,p.291)。

○直立姿勢=両足で立つときは、胴体と手足のバランスを仮定の垂線の両側に均等に配分し、片足を上げるときは、膝を垂線の前に、足を垂線の後ろに置いて、腕を横に下げるか頭上に直立させる姿勢。

○前傾姿勢=胴体が前傾するか、腕と脚が垂線よりも前に置かれる姿勢。

○後傾姿勢=胴体が後傾するか、腕と脚が垂線よりも後ろに置かれる姿勢。

体や手足が直立、前傾、後傾のいずれかの姿勢で静止する状態は、その姿勢での“表現(expression)”と呼ばれていた(Atkinson,1926,p.291)。

12

1920年代におけるアトキンソンのダンス教育の特徴⑤

(3)腕が空間に描く線による動作の基本デザイン

腕を空間のどの位置に置くか、腕を伸ばすか曲げるか、によって基本的なダンスの動作が作られ、指導されていた(Atkinson,1926,p.296)。

図1と図2から、膝を深く曲げるディープステップや膝を伸ばすライトステップに腕の位置や形が掛け合わされることによって、様々な動作が作られていたことがわかった。



図1 腕の位置と方向の違いによるディープステップとライトステップのバリエーション (Atkinson,1926,p.298)



図2 腕の位置、角度、屈曲と伸展及び方向の違いによるディープステップとライトステップのバリエーション (Atkinson,1926,p.299)

13

1920年代におけるアトキンソンのダンス教育の特徴⑦

(5)音楽の構成と身体運動との調和

音の長さ、音の高低、音の強弱、音の質、フレーズ、といった音楽の要素や構成を解釈すること、その解釈を身体運動で表現し、音楽と調和して動くことが目指されていた(Atkinson,1926,pp.296-298, Johnstone,1924,p.57,pp.62-64,pp.69-70)。

具体的には、以下のような学習課題が記されている(Atkinson,1926,p.297)。

- 音符の長さに合わせて長く深くステップしたり、短く軽くステップしたりする
- 高い音のときには腕を高く上げ、低い音のときには腕を低く下げる
- 音のアクセントのある拍を聴き取って音楽の小節の区切りを聴き分け、音楽のモチーフやフレーズを理解する
- 音の質にふさわしい動きの質のステップを行う。例えば、レガートにはなめらかなステップを、スタッカートには鋭く細かいステップを行う

15

15

今後の課題

今後は、マッジ・アトキンソンのダンス教育理論や教育実践に関する史料の収集と講読をさらに進め、彼女のダンス教育理論や指導方法の何にどのような教育的な価値が認められたか、どのようにしてナチュラルダンスがマンチェスターの学校体育へ採用されていったかを明らかにしたい。

将来的には、それらの結果と荒木直範によるナチュラルダンスの受容と紹介の様相とを対照し、荒木が留学を通して収集したナチュラルダンスの教育理論や指導法を日本に紹介する際に、アトキンソンのダンス教育理論や指導法の何がどのような文脈で摂取され、取捨選択されたのかを考察したい。

17

17

1920年代におけるアトキンソンのダンス教育の特徴⑥

(4)日常生活の動作から作られたエクササイズ

歩く、走る、跳ぶ、方向を変える、回転するといった日常生活の動作からエクササイズが作られ、指導されていた(Atkinson,1926,pp.291-296)。

方向、速さ、高さ、姿勢、膝の屈曲と伸展、などの条件を変化させた様々なエクササイズの動作が作られていたことがわかった。



図3ウォーキングステップの準備(上段)と後傾姿勢・前傾姿勢によるロック(下段左・中)及びランジ(下段右)(Atkinson,1926,p.293)

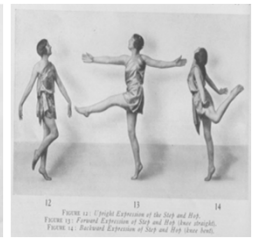


図4上へのステップホップ(右)と前へのステップホップ(中)及び後ろへのステップホップ(右)(Atkinson,1926,p.296)

14

まとめ

以上、1920年代のマッジ・アトキンソンのダンス教育の特徴と、彼女が開発したナチュラル・ムーブメントがどのような動作で構成され、どのようなエクササイズが指導されたかをみてきた。その結果、以下のことがわかった。

- ①アトキンソンは、足の動きの教育を重視しており、裸足で行う足のエクササイズは、変形した足の矯正や足の機能改善の点から教育的な効果が認められていた。
- ②歩く、走る、跳ぶ、回るなど日常生活にある自然な運動に、空間での体の位置、腕や膝の曲げ伸ばし、体重移動、動きの方向などの要素を掛け合わせるによってダンスの動作が作られ、指導されていた。
- ③ダンスにおいて、音楽の構成を解釈することや、その解釈を身体運動で表現して、音楽と調和して動くことが目指されていた。
- ④これらの特徴には、古代ギリシャのダンスにみられる「自然な動きや日常生活の動作で表現する美」というアトキンソンの理想が反映されていると考えられる。

16

16

参考文献一覧

- 荒木直範(1926) 體育ダンス教材集第巻編 都村有為堂・香川 pp.1-14.
- Atkinson, M. (1926) The Dance, Based on Natural Movement: an Introduction to My System of Teaching. Dancing Times, 195: 290-299.
- Brinson, P. (1980) Dance Education and Training in Britain. Calouste Gulbenkian Foundation, pp.193-195.
- Carter, A. (2010) Archives of the Dance (22) : Pioneer Women - Early British Modern Dancers (The National Resource Centre for Dance, University of Surrey), Dance research, 28 (1): 90-103.
- Carter, A. (2011) Dancing Based on Natural Movement. In: Carter, A. and Fensham, R. (eds.) Dancing Naturally: Nature, Neo-Classicism and Modernity in Early Twentieth-Century Dance. Paigrove Macmillan, pp.73-81.
- Carter, A. and Kelly, J. (eds.) (2011) British Dance Legacies: Natural Movement. Supplementary Information. University of Surrey National Resource Centre for Dance, pp.2-7.
- 廣業志保(2022) Madge Atkinson(1885-1970)のダンス教育に関する研究-1920年代の業績に焦点をあてて その1-日本教育大学協会保健体育・保健研究部門舞踊研究会 第42回全国創作舞踊研究発表会 発表資料
- Johnstone, A. (1924) The Physical Training of Girls. Sidgwick & Jackson, pp.57-74.
- アットキンソン・加藤穂夫・田中真穂訳(1973)近代ギリシア体育史 改訂増補版 ベースボール・マガジン社 p.127
- University of Surrey National Resource Centre for Dance. Natural Movement Archive <http://calmarchivecat.surrey.ac.uk/calminview/Record.aspx?src=CalminView.Catalog&id=NM&pos=23>(令和4年12月9日最終確認)

【付記】本研究は、令和2～6年度年度 日本学術振興会科学研究費助成事業科学研究費補助(基盤研究(C)課題番号:20K11487)の助成を受けて行われた。

ご清聴ありがとうございました。

18

18